

幼稚園型認定こども園

旭幼稚園

(旭保育園)

FAQ

—よくある質問—

2020年度版

はじめに

子ども・子育て支援法では幼稚園の業を「教育」とし、保育所については「保育」として区別されています。しかし、キリスト教保育の現場では幼稚園でも保育園でも幼児教育を「保育」と呼び、幼稚園教諭も保育士も「保育者」と呼んで、主イエス・キリストに仕えるように幼子に仕える志で事業を行ってきました。そういうわけで、ここでは従来通り敢えて「幼児教育」と言わなくても良いところは「保育」また「保育者」という言葉を用いています。

Q1. 自由保育って何ですか？

自由遊びを主体とした保育のことです。

遊びとは本来ひたすら楽しく、遊びの活動自身が目的であり、自発的に自由なもので、子どもは遊びの瞬間瞬間を精一杯に生きています。

保育者が手はずを全て整えて、一糸乱れずそろって計画通り遊ぶとき、子どもは遊ばされているのですから、子ども自身の自発性や自由な考えなどを発揮できる場面がありません。

旭幼稚園の自由保育を、『毎日ほったらかしで勝手に遊ばせている』と、誤解している方もいるようですが、そんな事はありません。保育者は常に子どもたちを見ながら、子どもたちの自発性を促し、遊びを進展させる言葉がけや、問題にぶつかっている子どもに、課題を克服する勇気と知恵を引き出す働きかけを、その一人ひとりにふさわしい仕方で行っています。

Q2. 遊びを通じて何が育つのでしょうか？

自由遊びの園の子どもたちが、体操教室を取り入れている園の子どもに比べて、運動嫌いが少なく身体能力が勝っていた、という研究者の報告があります(杉原隆東京学芸大学名誉教授 2012年)。好きな遊びの中で運動遊びが楽しくできるように工夫することで、子どもたちは思い切り体を動かしたり、上手になろうと努力したりするようになります。身体的な発達だけでなく、子どもが能力を伸ばしてゆくために必要なのは自由遊びをたっぷりすることなのです。

また、色々な人と交わって遊ぶことで社会性も身につきます。仲間とのコミュニケーションで力を合わせたり、援助したり、対立や葛藤が生まれた時には折り合いをつけたり、我が儘を我慢したりすることも自分の気付きで覚えるのです。子ども同士のトラブルも善し悪しの評価を大人がしてしまうのではなく、当事者である子ども同士で丁寧な話し合いをしていくことで大人が想像も出来ないような解決を見ることがあります。自由な遊びの中でだからこそ、子ども同士の出会いが深まるのです。そのようにして毎日の遊びの積み重ねから、他人との付き合い方、人間関係の保ち方、ルール、自分の役割、責任などを学び取っていきます。これは、将来一人ひとりが成長してゆくときの大きな大きな力となります。

自発性、自主性の獲得も遊びを通してなされます。よく遊ぶ子どもは日々自分で考え、判断し、決定する行為を繰り返しています。このことは日常生活の中で、自己決定力の確かさとなって現れ、たくましい生命力につながっていくに違いありません。

そして、自由遊びは知的能力を開発させます。遊びの中では各種の精神機能が活発に働きます。それは想像力であったり、思考力、判断力、推理力であったりします。また友達とのコミュニケーションによって言語能力が高められ、手先の器用さや数概念の発達も促されたり、記憶される知識の量も増大します。幼児期は遊びの中でこうした能力が開発されます。

Q3. 保育者はどの程度子どもに関わっているのですか？

保育者は常に子どもたちを見ながら、その一人ひとりに必要な関わりを持っていきます。子どもたちの自発性を促し、遊びを進展させる言葉がけや、問題にぶつかっている子どもに、課題を克服する勇気と知恵を引き出す働きかけをしています。「遊べない子ども」が時々います。子どもをただ遊ばせておけばいいのではなく、「遊べる子どもに育てていく」のです。また、保育者によって遊びが見守られているとい

う安心感が子どもを遊びに打ち込ませます。遊びが長続きするためには遊びが保障されていることが大切なのです。その為に保育者は一人ひとりの子どもをよく知り、しっかり受け止めて、子どもの集団を深く捉えていきます。

Q4. 縦割保育はいつから、どんな経緯で始めたのですか？

旭幼稚園で縦割保育が始まったのは1978年です。核家族化、少子化の気配が感じられるようになり、家の中で遊ぶ子どもが増え、子ども本来が持つ生命力が弱くなっているとの見方がなされるようになりました。それより6、7年前から研究者のアドバイスをいただいて、一斉保育の形態から子どもの遊びを重視する自由保育を行っていましたが、子どもたちによりよい保育をしていくために一層の検討を重ねてきました。その結果、子ども達同士の多様な出会いの場としての幼稚園を目指したのです。同じ年次の子どもだけを集めるのは人工的で不自然です。昔の巷の子ども達のようにとはいかないまでも、限られた条件の中で自然に近い子ども同士の出会いが出来、共に成長する感覚を喜び合える場としたいとの狙いです。そのために青山学院、東洋英和女学院、北陸学院などの、学者、研究者たちの親身な指導をいただきました。今日もその理想を家庭のような温かさの中で実現したいと思っています。

Q5. 縦割保育を保育者はどう捉えているのですか？

お家の方からは「発達段階に応じた保育が必要なのでは？」とか「遊びのペースが違いすぎるのでは？」あるいは「生活に無理が生じてくるのでは？」と言った質問を受けることがあります。

発達段階が同じ子どもたちだけを保育する方が保育者としては楽です。同じ年次の子どもたちだけを念頭に保育計画を立てられます。子どもたちの反応も想像しやすく対応しやすいのです。一斉に何かをするのも無理なくできます。同じ年次同士だと自然に仲間意識も出来てきます。それでも旭幼稚園は縦割り保育を行ってきました。それは同じ年次の子ども同士では経験できないものがあるからです。同じ年次の子どもたちは自由遊びなので縦割りの部屋を超えていっしょに遊び、仲間意識を持ちます。けれども部屋では同じ部屋同士の絆が生まれ、年少は年中年長に憧れ、年長は小さい子どもの面倒を見ようとします。あこがれが強すぎてうさぎがられたり、手をかけすぎて失敗という場面もあります。互いが微妙なところを受け止めあって、人間力を高めていきます。保育者はその一人ひとりと出会い一人ひとりの信頼を受け止めながら、互いに育つ子どもたちの成長に仕えるのです。発達段階が違えば行動パターンも違います。それを同じクラスで見るのは至難の業です。しかし、そこで生まれる年次を越えた子どもたちの立体的な出会いによって共に育つ姿は、年次別では決して見ることが出来ないものです。

Q6. 年次別の保育はしないのですか？

もちろんあります。いろいろな折に年次別の活動が入っています。旭幼稚園では発達段階に応じた取り組みをすることで、入園から卒園までを視野に入れた保育計画を進めます。その年次別の取り組みが無理なく行えて、そこでの体験がしっかりと身につくためにも、縦割りの中で育つことが大いに力になっていると思います。

Q7. お弁当と給食、どちらもあるんですか？

旭幼稚園ではお弁当を基本に考えています。それはお家の方が作ってくださったお弁当で、幼稚園にいてもお家とつながっていると感じられるからです。それが子どもたちの情緒の安定につながるからです。はやりの〇〇弁でなくても簡単なおかずでもいいのです。子どもさんの好きなものを入れてあげて、絆にしてください。「お母さんが作ってくれた」「今日のデザートは〇〇」と自慢げです。

けれども、どうしてもお弁当が準備できないご家庭もあります。そういうご家庭を応援して、2011年度より給食を始めました。給食は市内にある、地産地消を心がげ安心できるおいしい食材を使っている専門の業者に依頼をして、お弁当のかたちで届けてもらっています。2歳児のクローバー組は自園給食

を提供しています。給食は管理栄養士の管理の下で行われます。

家庭の祝福の中で子どもは育ちます。食育はその大切な部分です。お弁当でも給食でも愛情を込めて選んでください。具体的には園から毎月配られる、カレンダー形式の給食申込書に給食を利用したい日を記入していただきます。毎日利用してもかまいませんし、「お姉ちゃんの授業参観があってこの日は忙しいから給食にしよう」という理由でも大丈夫です。

Q 8. お弁当を好きなどころで食べているのはなぜですか？

お弁当の時間は子ども達にとって嬉しくて、楽しい時間です。11時30分頃になると「お弁当にしましょう」と声が掛かり、お弁当の準備が始まります。

新入園児は初めのうち、保育者とテーブルを囲んで食事のマナーを経験し学んでいきます。気持ちのよい姿勢で食べる、食べている途中は出歩かないなどのことが自分のものになると、テーブルだけではなく、それぞれ好きな場所で食べるようにしています。友達といっしょに食べる約束をしたり、いっしょに食べる約束ができなくてひとりで食べる子どももいます。そのうちに友達の輪に入れるようになるものです。中には誰とも約束をしないで一人で孤高を楽しんで食べる子どももいます。保育者はその想いを大切に見守ります。年長の子どもが一人で食べているのを年少の子どもが羨ましそうに見て「僕も一人で食べられるようになるんだ」と言っていました。ここでも不思議な心のふれあいがあるのです。

毎日の遊びの中から子どもたちは、誰とどこで食べようか考え思い思いの場所を選びます。どの子どもがどこで食べているのか把握し、ひとりで食べている子どもに心を留めながら、保育者もそれぞれの場所で食べています。

Q 9. アニメのキャラクター等の壁画がないのはなぜ？

アニメのキャラクターなどは子どもたちの目を楽しませます。それはディズニーランドやUSJのように日常とは違う世界を作り出して、私たちを楽しませてくれます。しかし幼稚園はテーマパークではありません。子どもたちの生活の場です。そこで生きた自然や自分達で作り出す物で感性を養ってほしいと考えます。よい絵本を見たりお話を聞くことは、日常の中に豊かな情操を育てます。

Q 10. 教育利用と保育利用とはどう違うのですか？

旭幼稚園は幼児教育施設です。幼稚園型認定こども園の認定を受け、保育事業も旭保育園（認可外保育所）として行っています。

教育利用とは幼稚園としての機能についての、保育利用とは保育所としての機能を表す役所での呼称です。幼稚園型認定こども園はそれを幼稚園中心に行うものですから幼稚園の時間帯は教育利用も保育利用も区別なく、旭幼稚園の幼児教育を受けていただくことが出来ます。その後の時間も教育利用の子どもさんは幼稚園の延長保育（希望保育）、保育利用の方はそのまま保育園での保育として区別なくお預かりいたします。幼稚園の子どもも保育園の子どもも神さまの御前では何の区別もありません。

Q 11. 固定遊具の数、種類は多い？少ない？

旭幼稚園の保育は、遊具に頼るものではありません。

保育者は意図的に、何も遊具のない環境に子ども達を置くこともあります。ご自分のお子さんはそんな時どうするのでしょうか？想像してみてください。

Q 12. 通園バスのルートはどうなっているのですか？

1台のバスで2つのルートを巡回しています。ルートは一年間同じです。乗り降りの場所は、道路の状況等の都合で少しご自宅から離れた場所になることもあります。その年度の利用者によってルートや時間が変わりますのでご了承ください。